こんなまちを願っています

完全参加と平等

シドニー・オリンピック、そして世界中の障害を持つ選手たちが力と技を競ったパラリンピックは、私たちに熱い感動を与えてくれました。一つのことに真正面から打ち込む姿には、無条件で頭の下がる思いがします。

十二月三日から障害者週間が始まります。障害のある人もない人も、お互いを理解し合いながら、共に生きる社会。そんなことを、ちょっと立ち止まって考えてみませんか。

障害のある人が、社会生活に完全に参加できるようにすると同時に、ほかの住民と同じ条件の中で、経済的発展の恩恵を平等に配分されなければならないという理念です。

ノーマライゼーション

障害のある人を特別視するのではなく、社会の中で普通の生活を送っていけるような条件を整え、共に生きる社会こそノーマルな社会であるという考えです。

リハビリテーション

身体的・精神的・社会的な適応能力を回復するための技術訓練にとどまらず、障害のある人の人生すべてにおいて普通の暮らしができるようにし、障害のある人の自立と社会参加をめざす考えです。

今野和夫さん
障害児者の地域生活支援を考える秋田ネットワーク代表
(秋田大学教育文化学部 障害児教育研究室教員)

「普通」の実現に向けて

私は４年ほど前に、誰でも気軽に入会できるネットワークを賛同者とともに発足させました。作業所や施設の職員、養護学校の先生、障害のある人、その家族など多彩なメンバーが、学習会や講演会、楽しいミニ旅行などを協力して行っています。これらの活動での出会いをきっかけに仲間や助け合いの輪が広がり、会員だけでなくより多くの人たちの生活や人生が豊かになっていけばいいなと思っています。

友だちと一緒に遊んだり相談し合う、不便や被害や差別の心配なしに安心して外出する、近所の人とあいさつを交わすといった、そんな普通の生活。障害のある多くの人たちが、そんな「普通」とはかけ離れた生活を送っています。社会は、「普通」の実現に向けて歩み始めたばかりなのです。

障害のある人たちも地域や社会を支える大切な仲間であること。自分も「障害者」と呼ばれる立場になりうること。「同じ立場や状況に置かれたら自分はどういう気持ちになるかな」と共感すること。これらのことを忘れずにいたいものです。「普通」の実現のために。

出会いの歌が広がった

今年も十月に児童会館で開かれた「であいのこんさあと」。障害のある人もない人も、広がるハーモニーにつつまれて、あたたかいコンサートになりました。

出会うことでふれあいが生まれ、ふれあいによって愛が大きくふくらみます。

保育園で手話を習った息子さんと初めて参加した藤田美幸さん(泉釜ノ町)は、「関心が薄かった障害について身近に感じることができました。会場の人たちはみんな明るく元気で、なんか勇気を分けてもらった感じです」と話していました。

ふれあいが美しいハーモニーになりました